

新聞と

これからの私

会津若松市 佐藤 有紗さん
一箕中1年

新聞は、今までの私の
中でのイメージでは「大
人が読むもの」だった。
しかし、今回その考え方
をもうやめることにし
た。毎日家にある新聞。
これをすみずみまで読ん
だことは一度もない。読
むとしたら、番組表や各
コンクールの結果、天気
予報など自分が気になっ
たものだけだった。

地方やスポーツまで幅広
い分野で事細かく書いて
ある。また、新聞記事に
は「見出し」というもの
が書いてあり、記事を読
まなくても一目見ただけ
で内容が読み手に伝わる
ようになっていく。見出
しがあることで、その記
事の内容に興味を持ち、
さらにくわしく読みたい
と思わせる工夫をしてい
ることが分かった。

私も今、生徒会に入り、
新聞を書いている。その
季節にあった内容や構
成、デザインを考えて製
作している。月に一度の
製作でも、興味を持って
もらう新聞を書くことは
大変なのに、毎日配達さ
れる新聞を製作している
人たちは、常に新しい情
報を取り入れ、だれが読
んでも分かりやすい構成
にしていることがすごい
と思う。

これからは新聞を「大
人が読むもの」ではなく
「だれでも読めるもの」
として捉えていきたい。
また、新聞をもっと読ん
で読む人の立場に立っ
て、だれでも読める新聞
にするための工夫を、こ
れからの生徒会の新聞作
りの時に生かしていきたい

新聞と私

父 佐藤 豪さん

物心がついた四十年以
上前から、新聞は常に身
近な存在です。様々な物
が当時と比べると格段に
進化した現代、例えば当
時家庭にあったダイヤル
式の黒電話がコードレス
に進化し、今では、一人
一台携帯電話やスマート
フォンを持つまでに進化
しました。しかし、新聞
は今でも当時の面影を残
す。新聞の良さは何でし
ょうか？ それは老若男女
問わず、日々の生活に欠
かせない情報が詰まった
最も身近な活字であり、
一面のトップニュースか
ら、テレビ欄や地方欄、
スポーツ欄まで興味を引
く見出しがあり、読み手
を選ばない新鮮な情報が

たくさんあることだと思
います。
現代では、ネットニュ
ースなどをすぐ見ること
も可能ですが、自分で検
索する手間がかかり、興
味のある情報に偏りがち
で、機器を操作できる年
代や環境が限られてお
り、新聞の見やすさや読
みやすさにはかなわない
と思います。

新聞は万国共通で世界
各国の人々に日々読まれ
ています。私が海外出張
で宿泊したホテルでは新
聞配達サービスがあり、
日本人の部屋のドアには
日本の新聞が、他国の人
の部屋のドアには、各国
の新聞が掛けられてい
て、どこの国でもやはり
新聞は身近に読まれてい
るのだと今でも記憶に
残っています。海外にい
る時は、日本のちょっと
したニュースや天気で
も、とても気になるもの
です。

新聞は情報を取材する
人、活字にする人、印刷
する人、運送や配達する
人に至るまで、日々たく
さんの人々のはたらき
により、世界各国の人に
届けられ読まれていま
す。
新聞離れといわれる昨
今ですが、今回子供と新
聞について話したことを
きっかけに、これからも
身近な存在である新聞を
読み続けていきたいと思
います。

